

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>				<b>4.1</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル		-		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音		-		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.5</b>	0.50		
1 開口部遮音性能		-		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能		界壁遮音等級D-50			-	<b>4.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		床材の遮音等級△LL(1)-4のため、遮音等級LL-45			-	<b>4.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-	<b>3.0</b>	0.20		
1.3 吸音		-			-		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35	<b>5.0</b>	1.00		<b>4.7</b>
2.1 室温制御		-		<b>3.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	1.00		
1 室温		-		<b>3.0</b>	0.63	-	-		
2 外皮性能		断熱等性能等級5相当 Low-Eガラスを採用		<b>3.0</b>	0.38	<b>5.0</b>	1.00		
3 ゾーン別制御性		-			-		-		
2.2 湿度制御		-		<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		<b>3.0</b>	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.7</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00		<b>3.8</b>
3.1 昼光利用		-		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50		
1 昼光率		昼光率 住居部分2.86%		<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50		
2 方位別開口		-			-	<b>3.0</b>	0.30		
3 昼光利用設備		-		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20		
3.2 グレア対策		-		<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50		
1 昼光制御		住居部分 カーテンと庇により昼光制御		<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
3.3 照度		-		<b>3.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		<b>3.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.2</b>	0.25	<b>4.2</b>	1.00		<b>4.2</b>
4.1 発生源対策		-		<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用している		<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	1.00		
4.2 換気		-		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38		
1 換気量		-		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
2 自然換気性能		-			-	<b>3.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.3 運用管理		-			-		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		-			-		-		
2 喫煙の制御		-			-		-		
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00		<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		-		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性		-			-		-		
2 高度情報通信設備対応		各住戸でGbitの通信回線が利用可能な配線を計画した			-	<b>5.0</b>	1.00		
3 バリアフリー計画		-		<b>3.0</b>	1.00		-		
1.2 心理性・快適性		-		<b>4.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観		-			-	<b>3.0</b>	0.50		
2 リフレッシュスペース		-			-		-		
3 内装計画		共用部のデザインコンセプト、イメージパース作成		<b>4.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50		
1.3 維持管理		-		<b>2.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		-		<b>2.0</b>	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		-		<b>2.0</b>	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30				<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		<b>3.0</b>	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数		-		<b>3.6</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能劣化等級3に相当		<b>5.0</b>	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		<b>2.0</b>	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		<b>3.0</b>	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		<b>3.0</b>	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上(硬質塩化ビニル管、水道用ポリエチレン管)		<b>5.0</b>	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
2.4 信頼性		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
3 電気設備		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		-		<b>3.0</b>	0.20		-		
5 通信・情報設備		-		<b>3.0</b>	0.20		-		

3	対応性・更新性		3.0	0.30	2.5	1.00	2.5
	3.1 空間のゆとり		-	-	2.0	0.50	
	1 階高のゆとり	-	-	-	2.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.3
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級5相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	太陽光発電設備採用	5.0	0.50	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	集合住宅の評価		5.0	1.00	-	-	
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.9	0.60	-	-	2.9
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体、軽鉄、仕上げ材の構造により躯体と仕上げ材の分別が容易	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.0	0.20	-	-	4.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	ビニルクロス接着剤に有害物質を含まない材料の使用	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	A種1Hノンフロン剤使用	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出率=65%	4.4	0.33	-	-	4.4
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	荷捌きスペース、適切な量の駐輪・駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	3.0	-	○	○		○	-	-	-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	2.0		-	-		-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0		-	-		-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-							
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	3.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	1.0	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		-	1.0	1.0	3.0	1.0	-	-	2.0	2.0				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	12.0		1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	2.0	3.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	-	-	1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 0.6 η AC 2.2 η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 2.86(住戸)
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 75~90 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 - m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 -
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 62% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 54% 水平投影面積率 11% 地表面対策面積率 38% 舗装面積率 23%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> - 断熱等性能等級 等級5 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 - 太陽光 203.0kW 太陽熱等 - 蓄電池 -
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅の評価	BEI/BEI <sub>m</sub> 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 38% 無 38% -
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1以下
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 0% 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> - 地表面対策面積率 54.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S <sub>b</sub> - 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> - m 基準高さH <sub>b</sub> - m 緑地 5,596㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡